

第4回 西区まちづくり懇話会 議事録 (要旨)

1 日 時 平成29年11月9日(木) 午後7時～午後9時

2 場 所 西区役所 3階 健康センターホール

3 出席委員(14名)

永松会長、小林副会長、境委員、木戸委員、片山委員、中根委員、北川委員、長塩委員、鮫島委員、大森委員、江藤委員、清田委員、吉村委員、伊牟田委員

4 議事要旨

(1) 開 会

(2) 西区長 挨拶

(3) 議 事 (進行:永松会長)

①第4回西区フェスタについて

<総務企画課課長> 資料P1～8に基づき説明。

<永松会長> 西区フェスタも年々懇話会の意見も反映して、親しみやすいものになってきているという印象。それでは、事務局の説明について意見や質問はないか。

<境委員> 3月17日の時間は何時から何時までか。

<総務企画課主査> 3月17日が10時から20時。3月18日が10時から17時で検討している。

<境委員> 前回の話を持ち帰ってできることはないか考えてみた。3月31日に本妙寺の桜灯籠を行う予定だが、プレ開催みたいなことができればと思って時間を確認した。

<総務企画課長> 場所なども相談しながら決めていければと思う。

また、先日2度の台風で中止された「しらかわ秋灯り」(小さな花火大会)もせっかく準備したのでこの時期にできればと検討されている。

<総務企画課長> さきほどの「西区の美味しいもん自慢」のところで、各校区のバザーなどで得意な料理など出されていれば一緒に出店できないかというのも考えている。ちなみに、小島校区では焼きそばをやっている。

<永松会長> フォトコンテストは西区のホームページを見れば入っていけるのか。

<総務企画課主査> はい。あとフェイスブックでの募集も考えている。

<吉村委員> フォトコンテストの写真は何に活用されるのか。

<総務企画課主査> まだ明確なものはないが、フェイスブックに掲載したり、西区の四季をまとめたものでPRするなど考えている。

<吉村委員> 何に使われるか明確だと、応募する意欲がわく。

<永松会長> こういう写真があると、各課が刊行物など出すときに西区の美しい景色を自由に使える。著作権を区が持つということは、関心を持った人に素材を提供する役割も

あり、それ自体がPRになる。

<吉村委員> 熊本の風景など写真を自由に使ってくださいという形で運営されている方がいる。そこにもたくさん熊本のすばらしい写真がある。西区に特化して活用するという前提でフォトコンテストをすると意味があるのではないか。

<小林副会長> フォトコンテストをして、その後機会があるごとに活用するのもありだが、西区のカレンダーを作って、売って復興に使ったり、イベントの景品で配ったりなど継続性のあるものを考えた方がいい。カレンダーだと、西区の景色を見て行きたいと思う人もいると思う。

<永松会長> 売るものを作るとなると予算も必要になるので、一つの提案として来年度でできるかどうかの検討をしていただきたいと思う。

<大森委員> 場所はどのような感じになるのか。

<鮫島委員> 熊本駅前、森都心プラザ、石塘、河川敷を回遊するような形になる。昨年も好評だった。

<吉村委員> 白浜いちごを初めて知った。どんな特徴があるのか。

<総務企画課主査> 品種は「ゆうべに」で、18農家が作っている。大きくて香がよい。

<北川委員> 美味しいもん自慢やフォトコンテストは非常に魅力があるが、健康まちづくりや防災に人が寄りにくいのではないか。消防とも連携してやるとのことだが、以前島崎出張所と防災フェスタをしたときに隊員イケメンコンテストをやって、特にその時間帯は人がたくさん集まった。1位になった隊員にたすきをかけて一緒に食事処を歩いてもらうとか、この隊員はいざというときこういう活躍をするなどを紹介するとか、本来の趣旨とは異なるかもしれないが、防災コーナーにも興味をもってくれるのではないか。

<鮫島委員> 確かに「健康まちづくり」や「安心・安全のまちづくり」は硬い。ちょっと柔らかい催しがあるといい。

<鮫島委員> 健康まちづくり報告会は、順番に発表して、発表した人たちが次に観客になるような感じなのか。

<保健子ども課長> そのとおり。

<鮫島委員> 新しい客が来る仕掛けが必要ではないか。「体を動かしながら」とか、「肩こり解消」に特化するとか、いろんな人が楽しめるものがあるといい。

<保健子ども課長> 健康まちづくりの事例集作成にも若い人が関わっているので、若い人たちが関心をもってもらえる機会になればいいと考えている。

<北川委員> 校区でやっているズンバとかヒップホップに高齢者を誘ってみたいという話がある。交流の場にもなるのではないか。

<吉村委員> ピラティスは、体幹を鍛えるので若い人は美しくなることを目的に、高齢者には寝たきりを防ぐという意味で取り入れられないか。女性はおしゃれなものが好き。

<永松会長> 女性にはボクササイズも人気。ストレス発散もできる。報告会の途中に〇〇教室みたいなものを入れるのも手。

<鮫島委員> ズンバ、ピラティス、ボクササイズよりは、「寝たきりにならない体操」み

たいなものが、親しみやすいのではないか。

- <吉村委員> 「西区は〇〇をやっているから健康なんだ」みたいなもののきっかけになるといい。
- <江藤委員> 健康まちづくりも時間帯で何をやるか分かるようにしておくといい。
- <境委員> 脳梗塞になるまで健康に興味がなかった。恐怖に訴える方法もある。
- <永松会長> やはり健康を考え出すのは、40代くらいから。
- <小林副会長> 若い人を呼びたいのであれば、興味があるのは「ダイエット」「太らない」「体にやさしい」「代謝があがる」食生活などは若い人も興味をもつのではないか。
- <片山委員> 乗ると体内年齢が分かる機械がある。50代で『25歳』の結果が出ると、何をしているのかなど健康トークが盛り上がる。その機械があるならぜひ置いてほしい。機械は何台かあるのか。
- <保健子ども課長> 西区には1台ある。
- <永松会長> 持ち運びは可能か。
- <保健子ども課長> 可能。
- <鮫島委員> 他の区にもあるのか。貸してもらえたりするのか。
- <保健子ども課長> 他の区が持っていれば台数をそろえるのは可能かと思う。
- <鮫島委員> 若い人は「健康」より「スポーツ」などのキーワードを使うとよい。
- <永松会長> 次の議題もあるので、他に意見がある方は事務局へ直接連絡を。

②平成30年度まちづくり推進経費について

- <総務企画課課長> 資料P9～18に基づき説明。
- <永松会長> 個人的には地域コミュニティづくり支援助成が使いやすくなる印象を受けた。それでは、意見や質問はないか。
- <境委員> 廃止事業の予算額はいくらか。
- <総務企画課主査> 平成29年度は、スポーツ大会が90万円、花のあるまちづくりが50万円、健康まちづくり自慢集が140万円だった。
- <北川委員> スポーツ大会の廃止についてだが、部活動の移行が平成31年度に控えており、小学校の部活動については週2回の練習と月2回の大会しかしないと熊本市が打ち出している。あと年2回の市主催及び共催大会のみになるという話である。熊本と他いくつかの県しか学校部活動が残っているところはないが、学校部活動の先生たちが区などの地域の大会には出ていいようにという働きかけをやっているところである。私としては部活動の子にも試合に出させてあげたい。今後、復活も考えてほしい。
- <永松会長> 今の話は子どもの部活をどうするかという話だと思う。市としてどう考えるかだろう。こういう意見が出たということを教育委員会に伝えてもらいたい。
- <清田委員> アグリ・ギョギョキッズについて、玉ねぎも面白いのではないか。
- <永松会長> 子どもたちが参加できる時期もあるので、それにあった作物になるになるのではないか。
- <総務企画課長> 時期、回数等もあるので、今後検討していきたい。

- <鮫島委員> これは単発なのか。今月だったら稲刈り体験とか。
- <総務企画課長> 苗づくりから収穫まで流れが分かるものを考えている。
- <鮫島委員> 通年で体験するなど、一過性で終わらない仕掛けを考えたほうが良いと思って質問した。
- <小林副会長> まちづくり事業の年間のカレンダーがあると、空いてる時期も分かるのでそこで何かできると思う。
- <永松会長> 毎年作成しているもので、近いうちに作成される。
- <北川委員> 中央区の黒髪校区がポータルサイトを作っている。要は校区のホームページ。そのなかで子ども達が校区のショッピングリストや「自治会とは何か」「コミセンは何をやっているのか」の他、観光歴史などを載せている。子育て世代は回覧板より携帯を見るので、すごくいい事業だと思う。西区でも少しずつ広げていけたらと考えている。
- <永松会長> 委員にモデル的に取り組んでいただき、やり方が分からない校区に広めていただけるといい。先駆者が必要。
- <境委員> 校区ごとのホームページについてだが、ずいぶん昔にくまもとITまちづくり委員会で作った。しかし、メンテナンスがされていない。いいところは各校区のフォーマットが同じこと。これを使いまわすと安くできる。ただ、スマホについては考えられていない。
- <北川委員> 各校区ですと、誰かが更新作業をしなくてはならない。お金はかかるが、メンテナンスは業者にやってほしい。更新がボランティアで頓挫した経緯がある。
- <永松会長> これを広げるかどうかは議論がある。業者にやってもらうのは便利な反面、望ましいコミュニティづくりのあり方かということもあるし、自分たちにできる範囲でやるという考え方もある。それぞれの校区で意見が分かれるのではないか。一回やってもらって、そのことが地域づくりにプラスになるのかという検証も必要かと思う。
- <小林副会長> 西区の宝探しをやったが、現在はそこで終わってしまっている。今のポータルサイトの話も同じで、情報を集めるもしくは整理するなどのプロセスが住民の結束を高めたり、宝を再発見できたりする。そして、コンテンツが充実し、意識が変わってきた時にサークルなどを作って整理するというプロセスを大切にしたい方がいい。
- <永松会長> いろいろ試してみて地区にあったやり方を見つけるのがいい。そして、支援事業を活用して、今の話のようにぜひやってみたいことがあれば、どんどんチャレンジしてほしい。そうするとノウハウも蓄積される。
- <中根委員> ワークショップで西区の宝はまんじゅう屋という話が出た。そういうところを西区フェスタの美味しいもんで集めてもらって、ワークショップからのつながりをもってやれば良いと思う。
- <永松会長> お店も学生の推薦は喜んでくれると思う。
- <鮫島委員> 平成29年度のまちづくり推進経費の西区活性化支援事業の説明で、基になっているのは前回行ったワークショップか。そしてこれを更に発展させるということで捉えてよいか。
- <総務企画課主査> 前回「西区の宝」を出してもらったので、これらを活用してアイデアコンテストを行いたいと考えている。

<鮫島委員> 前は懇話会でやったが、それを外に出して、それをどう活かしていくかも外部からアイデアを募集するということか。

<総務企画課主査> はい。

<長塩委員> 美味しいもんについてだが、小さい玉ねぎを使ったスープは行列ができる。牛井も800食作ったことがある。今からの時期は生のりでつくだにもできる。西区は熊本県ののりの8割くらいを占めている。

<吉村委員> のりはすごくおいしい。ぜひPRしてほしい。

<伊牟田委員> 西区フェスタの健康まちづくりの話だが、たばこの害が分かるものを展示するのはどうか。

<永松会長> 私も段階的に禁煙しているが、目をつぶってしまう。やめたらこんなにハッピーになるみたいなのがいい。では、時間になったので他に何かあれば直接事務局へ。

(4) 閉 会